

1 研究主題

『新たな時代を切り拓き よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
～昨年度の理論研修・各校の実践交流から、自校の校内組織の機能化を進め、
小樽市小中学校全体の業務改善に役立てる～

2 研究推進の概要

活動計画	評価（成果と課題）
(1) 学校組織の機能化～指導的立場としての教務主任の機能化～	①校長会として取り組んできた「校務規定」の定着と、それに基づいた「各分掌部会」等の開催と、各部の業務をつなぎ指導する「教務主任」の機能化に向け全市で取り組んだ。中学校校長会では、各校の「校務分掌表」を交流し、他校の実践に学ぶ機会を設定し、自校の学校組織の機能化を進めた。
(2) 業務改善の推進～校内組織の機能化をベースにした業務の見直しと推進	①校長会全体で「学校運営に係る業務分担表」を共有し、校内組織における業務の見える化を進め校内組織の機能化を進めた。研究部としては、令和3年度の「教頭」「主幹教諭」「教務主任」の勤務時間と令和4年度上半期のデータを取ることで、業務の量的変化を捉え、改善の進捗状況の一資料とした。 ②7月に示したアンケート分析結果をもとに、「『働き方改革』の推進に向けた小樽市小中学校の取組事例」「『働き方改革』の推進に向けた参考事例」の2つの資料を作成し、1月の校長研修会議において自校で実践できそうな事例を示し、各校での活用を促した。
(3) 人材育成	①校長会主催人材育成に係る研修を小学校校長会研修部と協力し、年3回実施した。第1回目の研修会参加者の感想をもとに、第3回目の研修会では、学校における業務改善、教育活動の充実に一役買うことのできるコミュニティ・スクールの運用に詳しいCSマイスターによる講演を取り入れた。地域とともにある学校づくり・働き方改革等の示唆をいただいたものと考えている。
※ 道中校長会・全日本中学校長会	※全日本中学校長会研究大会札幌大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により参加人数を制限したオンライン開催となった。来年度の道中小樽大会につなぐため、研究部の部員が中心となって参加した。
(4) 研究紀要の刊行	①1年間の足跡を残すため、業務改善の推進に係るアンケート及び結果、作成資料等、校長会主催の研修会の内容を中心に掲載した。

3 研究の成果と課題

今年度、小樽市校長会としての重点目標を受け、校長会事務局、小学校長会研修部、中学校長会研究部がそれぞれ役割分担し研修を進めてきた。コロナ後を見据えながら、参集型とオンライン型を適宜選択して研修会議を行ってきた。作成資料等にある全国の事例や本市の事例を参考にし、自校で有効活用していただくことを望む。

GIGAスクール構想が前倒しとなり、全校生徒の手にコンピュータ端末があたり、学習環境は大きく進化した。ICT機器を活用した授業実践を交流する機会も多く設定され、授業の中に端末が活かされることにより授業の準備や評価の効率化も図られている。「働き方改革」の推進については、『校内組織の機能化』『小中一貫教育の推進』『人材育成』等、多方面からのアプローチがなされており、校内における業務の効率化は確実に進んでおり、業務環境改善の重点課題「教頭への支援」についても一定の成果が出てきている。人材育成に係る「校長会主催 職能向上研修会」は目的に応じてオンライン研修（一般職舎）と対面型研修（管理職候補者）を組み合わせで行った。小中を問わずオール小樽で次代の人材を育てる本研修により多くの教職員の学校経営参画意識の高揚が見られた。

1 研究主題

『新たな時代を切り拓き よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
～昨年度までの各校の実践交流と校内組織の機能化の成果を活かし、
自校の課題にあった働き方改革を進め、小樽市小中学校全体の業務改善に役立てる～

2 研究主題設定の趣旨

小樽市校長会は、昨年度、重点目標①学校組織の機能化（教務主任の機能化：組織の系統化によるスピーディな意思決定と小樽市内いずれの学校においても継続的に、校長職を全うできる学校づくり。）とした。前年度までの研究の視点、②業務改善の推進、③小中一貫教育の推進、④人材育成の3観点も合わせ、4観点から研究を深めてきた。校長会事務局を中心に学校組織の機能化を、小学校長会研修部を中心に学校経営の参画意識を高める人材育成を、中学校研究部が中心となり業務改善を進め、アンケートによって各校の実態を捉え、他校の事例や先行事例に学び「働き方改革」を推進し、業務改善の定着を図ってきた。

小・中各研究部は、道小・道中における今後の研究発表を視野に入れ、それぞれ担当を決め研修を深めること、また、小樽市全ての小中学校の現状を把握し、改善に向けた提案をすること及び研究内容を校長会全体に還元することで、小樽市校長会が掲げるテーマ『自走への連携』の実現を図っていく。

小樽市中学校長会では、令和6年度の道中での提言発表に向け、その内容である「勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実」を受け、「働き方改革」と「学校運営体制の充実」を中心に研修を進める。昨年度まで、理論研修や実態把握と改善方策の交流を進めてきたことから、4年目の今年度は各校の業務改善につながる実践を紹介し、各校の業務改善のアイデアを重ね、各校の課題に合わせた働き方改革を進める年としたい。また、校長会全体の重点目標を意識し、「令和の日本型学校教育」「人材育成」についての研修も深めるものとする。

3 研究内容

- (1)「学校運営組織の機能化～教職員の経営参画意識の向上と人材育成～」
- (2)「業務改善～ICT等を活用した業務の見直しと働き方改革の推進～」

※各校の課題に合わせた働き方改革～小中一貫教育の推進・CSの機能の活用等

4 研究推進計画

- 5月 定例校長研修会議にて研究部活動計画案検討
- 6月 中学校研究部会としての方向性の提示
- 7月 定例校長研修会議にて研修内容にもとづいた研修の実施
- 8月 資料をもとにした提案
- 9月 課題改善に向けた各校の取組状況の確認
- 10月 今年度前期における成果・後期における課題の提示
- 11月 実態交流
- 12月 実施状況確認
- 1月 次年度に向けた方向性の確認

5 研究組織

- | | |
|------------------|----------------|
| 部長 高橋 恒雄(潮見台中学校) | ・ 岡本 清豪(北陵中学校) |
| 代永 研(桜町中学校) | ・ 大山 倫生(朝里中学校) |
| 山本 俊次(望洋台中学校) | ・ 村中 寿幸(忍路中学校) |